内藤修理亮六千余人宮城方に向ふ
上杉二千人とて付き従ふる方の人々一所に集り軍評定
をなす一味同心の起請文あるべしとて乃至の名付を各
連判を堅くして上杉起請文かゝる家老のかゝるとこと其
後義光宮城の出陣に攻入らんと欲し和睦より合戦
終て寄手を破るべきなるべし軍の行方屋形様山形に直に
山中へ押寄し間道を経金沢国中に出の合戦も
味方の勝運なるべしと為るべしと伝せけるとぞ各出陣
如ぎこの七月十日軍評定一決して出陣に義光のはた
代として場を修理亮に与へ千五百人をあ添く其外の諸勢
彼方に五千六百四十人南部大膳大夫攻来て陣取
て出づ七月廿日山形を出て陣取るひたすら敵を上方より
治部少輔 弦道を企づる伝て関東の諸勢引退之組貿
大津の郷を政所の宮家康公法父子も奥州の乱逆を打捨て
小山より江戸に帰上洛有之旨諸勢の通をいくが如く告
来れば大きに驚き之諸国中少べく蜂起せんとす和
領国の一揆の輩出来ること言語に
尽くす百姓も云形に義光二一左右の届も及ばず其夜義